

設立 35 周年記念、講演会と式典が行われました

2022 年 10 月 15 日（土）、習志野市国際交流協会設立 35 周年を記念して、「トーセイホテル & セミナー幕張」において記念講演会と記念式典が開催されました。

講演会・式典ともに来賓や会員 74 名が参加、受付ではウクライナ支援の絵はがきと缶バッジが販売されました。

記念講演会「世界遺産の不思議と魅力」

世界遺産検定マイスター 片岡英夫さん

記念式典に先立ち、記念講演会が開催されました。テーマは「世界遺産の不思議と魅力」で、講師は世界遺産検定マイスターの片岡英夫さんです。片岡さんは、初代海外・旅行地理名誉博士であり、著作やメディアでの発信をはじめ、さまざまな分野でご活躍の方です。

片岡さんの講演は参加型で、聴衆はクイズに答えるなどして自然と講演に引き込まれていきます。金閣寺（いわゆるあの金色の建築物）は世界遺産なのか？ 世界遺産が一番多く指定されている国はどこか？ などを聴衆に問いかけ、私たちの既成概念を打ち破るような驚きの数々を語ります。

片岡さんが特に強調していたことは、世界遺産の登録条件である「顕著な普遍的価値を有すること」(Outstanding Universal Value 通称 OUV) です。この条件のもと、登録基準は 10 項目あり、そのうちの一つ以上を満たさなければならないとのこと。このことを含め、多くの知識と示唆に富んだ話でした。

また片岡さんは、時にユーモアを交えなが



ら聴いている私たちに笑顔をもたらすことも忘れないなど、世界遺産についてハードルを下げながらも、講演は本質を突く深みのあるものだったと思います。参加した皆さんも驚嘆し納得した表情でした。

時間はあっという間に過ぎ、時間が足りず、次回を期待する声も多く聞かれました。習志野市国際交流協会設立 35 周年事業の一環としてふさわしい講演会となりました。

（報告：伊東稔雄 広報部会）。

記念式典-----35 年の称賛と感謝、40 年への決意とともに

今回の記念式典はコロナ禍での実施ということもあり、運営会議で協議を重ね、徹底した感染症防止対策を講じた上での開催となりました。参加者のマスク着用・手指消毒はもとより、酒類は提供せず、食事もお弁当での提供とし、黙食を心がけ、できるだけ短時間で開催できるように配慮しました。



式典会場

吉村和就 NIA 会長からは、ご自身が国連ニューヨーク本部で環境審議官をされていた時の経験から、若い人に外国人と触れ合う実体験を増やすなどの支援に力を入れていきたいという



吉村和就 NIA 会長

うこと、そしてこれからも「国際親善を通じて習志野市の国際化に寄与する」という精神で邁進していきたいという挨拶がありました。

また、宮本泰介習志野市長からは、日本人と外国人が共に地域の構成員として安心して暮らせることに寄与してきたことはもちろん、豊かな教養、広い視野を持った国際性豊かな人材の



宮本泰介習志野市長

育成に貢献している習志野市国際交流協会の存在意義は、今後ますます高まっていくと確

信しているとのお言葉をいただきました。

そして清水大輔市議会議長からも、コロナ禍は国と国との往来に大きな影響を及ぼしたけれども、これまで日本が各国と築き上げた絆は変わらないこと、そして世界各国との友好・親善を展開して



清水大輔市議会議長

いくことが世界平和の維持・発展に寄与するものであるとのお話がありました。

アラバマ州から来ている3人のALT（外国語指導助手）が日本語で挨拶をして会場を沸かせた後に、現顧問で崎山征雄前会長に、長年にわたるご功績に対して感謝状と花束が渡されました。

35年という長い歴史を刻んでこられたのは歴代の会長や理事とともに会員の皆さまのご支援、ご協力があったからこそと深く感謝申し上げます。多文化共生社会の実現を目指してこれからも40年、50年と時を重ねていきたいと思えます。（報告：井澤修美 事務局長）